

# 連携

栗原市立栗原中央病院

広報誌

編集：広報委員会、地域医療連携室

平成24年5月発行

第42号

## 病院の理念

わたしたちは、人間尊重の立場に立った最善の医療を行うことにより、地域社会に貢献します

## 基本方針

わたしたちは、患者様の立場に立ち生命の尊重と人間性を基本とした

1. 地域の皆さまから信頼される、心のかよう医療を行います
2. 良質な医療の確保を目指し、常に新しい知識と技術の向上に努め、安全な医療を行います
3. 地域のニーズに合った医療を提供するとともに地域に貢献できる病院を目指します
4. 地域の中核病院として、他の医療機関との連携に努めます

## 新年度のご挨拶



地域医療連携室顧問

副院長 佐藤 修一

平成24年度も早いもので、1ヶ月が過ぎました。震災からの復旧、原発事故の後始末、消費税、北朝鮮のミサイル、TPP等々、国の内外は相変わらず慌ただしい動きです。当院も昨年度末以来、DPCの導入、電子カルテの稼働など現代の急性期病院にふさわしい内容を持つべく進化の途上であります。また、内田副院長、渡邊和子連携室長をはじめとしたスタッフが病院を去られました。一方、中鉢誠司外科部長が副院長に昇任し、被災地の石巻市立病院から森安章人先生が内科部長として赴任されたりと、今年も2人のフレッシュで優秀な研修医を迎えております。以上をふまえ今年度は次に述べる方針で、臨みたいと考えております。

1. 病一診、病一病連携のさらなる充実  
今年度の診療報酬改定におきまして、医療連携に力点がおかれています。退

院時指導などでの協力や開放病床のご利用などよろしくお願いいたします。また、研修指定病院として様々な患者様をご紹介いただければ幸いです。

2. 講演会、勉強会等の開催  
特に今年は、リハビリや感染症などをテーマにしたいと考えています。ふるってのご参加をお願いいたします。
3. 患者様やその家族へのサポート  
特にながん患者相談支援病院として少しでも、役立つことができればと考えています。

最後になりますが、連携室長は、看護師長の千葉由美子が担当することになりました。前任者同様、お気軽にご相談ください。この地域の基幹病院として住民から身近な存在であるためには先生方のお力をいただかなければなりません。今年度も何卒、よろしくお願い申し上げます。



〒987-2205 宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1




栗原市立栗原中央病院（代表）TEL：0228-21-5330 FAX：0228-21-5350

URL：http://www.kam.or.jp/


地域医療連携室（直通）TEL：0228-21-5335 FAX：0228-21-5336

# 新任医師紹介 よろしくお願ひいたします！



 <p>もりやす あきひと <b>森安 章人</b> 内科部長 出身地 兵庫県</p> <p>津波被災で全壊しました石巻市立病院より異動となりました。微力ながら栗原中央病院のお役に立ち、栗原医療圏のために努力したいと思います</p>	 <p>ちば たかひこ <b>千葉 貴彦</b> 内科医員 出身地 宮城県</p> <p>4月より内科医として勤務することになりました。栗原の地域医療に貢献できるように一生懸命努めてまいります。よろしくお願いします。</p>
 <p>たかはし ひろかず <b>高橋 宏和</b> 外科医員 出身地 宮城県</p> <p>2年間の初期臨床研修を終えて引続き後期研修医として栗原中央病院で勤務することになりました。まだまだ、未熟ですが、どうぞよろしくお願いいたします。</p>	<p><b>臨床研修医</b></p> <p>むらやま ちひろ <b>村山 千尋</b></p> <p>かわぐち ようじ <b>川口 陽史</b></p>

## 地域医療連携室の紹介

	<p>室長 <b>千葉 由美子</b></p> <p>4月1日付けで地域医療連携室に異動になりました。ここ栗原で生まれ、育ち、職場もずっと栗原の私です。栗原一直線の人生です。そんな私の願いは、栗原市民から、`栗原中央病院は栗原市民の誇れるものの一つである`とっていただくことです。皆さまのお力添えをいただきながら頑張りますので、よろしくお願いいたします。</p>
---	---

### 地域医療連携室のメンバー

顧問	佐藤修一（副院長）
室長	千葉由美子 看護師長
社会福祉士	曾根朋子 MSW
事務	大場典子
	小岩すみ江

よろしくお願いします。

## ◎退職辞令

所属・職名	氏 名	摘 要
診療部・外科副院長	内田 孝	平成24年3月31日付け退職
診療部・泌尿器科部長	小野寺 孝夫	//
診療部・内科医員	菅井 隆広	//
地域医療連携室長・総看護師長	渡邊 和子	//





## 退職のご挨拶

外科 副院長 内田 孝

厳しかった寒さも、ようやく峠を越えたようです。

2002年7月から栗原中央病院は開院したわけですが、開院と同時に山形県の公立置賜病院から異動してきました。今年で、はや10年を迎えることになりました。この辺りで、一区切りしたいと思ひまして、この3月で退職させて頂くことになりました。一緒に仕事をさせていただいた中央病院の先生方や医師会の諸先生方、また多くの職員の皆様の強力なサポートのお陰で、今日まで勤務することができました。ありがとうございました。

栗原中央病院は、開院当時の町立病院の体制から大きく変貌をとげてきました。当時、手術件数が少なく、やっていた手術も限られていましたが、東北大学第2外科教室の里見教授のご尽力もあり、外科の診療体制を充実させてきましたので、必要な手術の大部分をこなせるようになりました。手術件数も次第にのびて、充実した外科診療が行えるようになったと思います。

また、この10年間で、今まで経験できなかったような経験（医療安全、災害医療、初期研修など）ができ、非常に印象深いものがあります。

医療事故を契機に、当院の医療安全マニュアル

の全面的改訂と専任リスクマネージャーの設置、医療安全管理室の設置、毎週ひらく医療安全対策委員会（毎週報告されるヒヤリハットを検討して対策をたてる）など、「医療安全」への取り組みを強化してきましたので、医療安全については県内でもかなりのレベルになりました。

また、災害医療にも取り組ませて頂き、3年前の「岩手宮城内陸地震」の貴重な経験を活かして、実用に耐えうる「災害医療マニュアル」も策定し、災害医療への備えを行いましたので、昨年の中日本大震災では、大きな混乱もなくマニュアルに沿って行動でき、前回の反省も大いに生かすことができたと思います。

2010年4月からは管理型研修指定病院として、初期研修生を受け入れ指導体制を作ってきました。今年はじめて、当院研修生の修了生がでることになり、大変喜ばしい限りです。

この10年で、「医療安全、災害医療、初期研修など」に携わらせていただきましたことに感謝申し上げます。また、これらの活動をサポートしてくださった方々に厚く御礼を申し上げたいと思います。今後の皆様方のさらなる発展と健康を祈念して退職の挨拶といたします。ありがとうございました。

## 学会・研修会・論文発表



### ☆第195回日本内科学会東北地方会 2012.2.18 ～仙台市～

『副甲状腺腫瘍を合併した虫垂原発と考えられる腹膜偽粘液腫の1例』

…○平川和重<sup>1)</sup>、菅井隆広<sup>1)</sup>、大橋裕介<sup>2)</sup>、佐藤晃彦<sup>1)</sup>、米村 豊<sup>3)</sup>、水本明良<sup>3)</sup>、佐藤修一<sup>1)</sup>、小林光樹<sup>1)</sup>、小泉 勝<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>栗原市立栗原中央病院内科、<sup>2)</sup>栗原市立栗原中央病院外科、<sup>3)</sup> 草津総合病院一般・消化器外科

『機能性後腹膜パラガングリオーマの1例』

…○三井英俊<sup>1)</sup>、佐藤晃彦<sup>1)</sup>、佐藤修一<sup>1)</sup>、菅井隆広<sup>1)</sup>、小西秀知<sup>1)</sup>、小林光樹<sup>1)</sup>、小泉 勝<sup>1)</sup>、中鉢誠司<sup>2)</sup>、大橋裕介<sup>2)</sup>、朝倉 徹<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>栗原市立栗原中央病院内科、<sup>2)</sup>栗原市立栗原中央病院外科、<sup>3)</sup> 石巻赤十字病院消化器内科

### ☆第148回日本消化器内視鏡学会東北支部 2012.2.3 ～仙台市～

『当院における急性胆管炎症例の検討：地域医療連携推進は病態改善に寄与する』

…○菅井隆広、佐藤晃彦、佐藤修一、木田真美、小西秀知、荒井 壮、布施 香、小林光樹、小泉 勝

### ☆第31回食事療法学会 2012.3.10～2012.3.11 ー東京都ー

『緊急時にいかに対応するか』・・・伊藤義博

### ☆宮城県医師会報 2012.2 P.111 地域のページ

『3.11 原発震災に思う』・・・内田 孝（前副院長 栗原市医師会理事）

### ☆きぼうメディカルみやぎ vol.3 2012.1 P.12

『できそうな方法をみつけてください』・・・伊藤義博（宮城県栄養士会病院栄養士協議会会長）





## がん患者・家族相談支援運営部会 講演会

平成 23 年度がん患者・家族相談支援運営部会の講演会を 3 月 1 日（木）18 時からホテルグランドプラザ浦島（栗原市）を会場に、大崎市民病院腫瘍センター長 蒲生真紀夫先生を講師にお迎えし、「がんの薬物療法の今日とこれから」と題して開催し、76 名の方々に参加していただきました。

講演で先生は、がん薬物療法の進歩として、優れた支持療法の開発や腎臓に著明に効く薬剤の開発等により『その人がその人らしく生きる』ことが可能になったとお話くださいました。治療について、標準治療とは今一番の治療（チャンピオン）、科学的データに基づいたきちんとした治療のことであること、誰でもが大腸がんガイドラインを今やインターネットで情報が入手できるようになっているということ。また、薬物療法の発展が患者の延命につながることはもちろん、患者・家族の QOL も高めており、癌と診断を受け、その後の人生をどう生きたいか、患者さんの望む環境づくりも可能になってきているということも伺い、私たちも前向きに患者さんをサポートしていくことができると思いました。

さらに、今は癌治療と疼痛緩和治療が同時進行で進められるようになってきているということです。これは患者さん方にとっても朗報と言えると思いました。

前地域医療連携室長 渡邊和子

## 第4回超音波研修会

第4回腹部超音波研修会が、3月12日に開催されました。秋田赤十字病院の石田先生にご講演をいただき、今回は腹水のお話をして頂きました。講演の内容は超音波だけでなく、CTやMRIなど画像を扱う私たちに翌日から役立つ内容でした。次回は「胆嚢」をテーマに石田先生にご講演をしていただく予定をしています。多くの方のご参加をお待ちしております。

主任放射線技師 千葉崇宏



## 地域医療連携室学術講演会

平成 23 年度地域医療連携室学術講演会を平成 24 年 3 月 16 日に開催しました。今回は、国立病院機構仙台医療センター脳外科医長の江面正幸先生をお迎えし、「虚血性脳血管障害に対する血管内治療 ―主に慢性期における治療について―」と題してご講演いただき、76 名の方にご参加いただきました。先生は血管内治療のパイオニアで、最新の治療の方法についても放射線映像を使い丁寧に説明して下さい、大変興味深く聴くことができました。参加者のアンケートにも、「最新の血管治療について大変参考になりました。」「血管内の血流を改善することにより、後遺症が少なくなり、患者さんにとってとても素晴らしいことだと思います。」という多くの感想をいただきました。栗原市内での脳血管障害の治療に大いに役立てていただけたのではないかと思います。

前地域医療連携室長 渡邊和子

## 編集後記

風薫る季節、新緑のまぶしい季節がやってきました。こいのぼりも気持ちよさそうにおよいでいます。新年度が始まり、早一ヶ月。新しく当院の仲間として働き始めた職員も環境に慣れてきた頃でしょう。連携室のメンバーも、一日も早く、地域の皆様に顔を覚えていただけるように努めたいと思います。ご意見ご要望、お気軽にご連絡ください。 T.S

